

シグマ研究委員会
崩壊熱評価ワーキング・グループ議事録

日 時 昭和 61 年 7 月 1 日 (火) 13:30~17:04
場 所 原研東海研 研究 2 棟 221 号室
出席者 中嶋龍三 (法大), 田坂完二, 井原 均, 片倉純一 (原研),
橋 孝博 (早大), 飯島俊吾, 吉田 正 (N A I G)

議題

- (1) 第 2 版作成について
- (2) 誤差評価
- (3) その他

議事内容

1. 第 2 版作成について

第 2 版のための中間ファイルが, 少少の保留点を除き, 一応完成したとの報告が片倉委員よりなされた。

中間ファイルに核分裂収率をつけ加え, 最終ファイルを作成する立場から井原委員より報告があり, 三体核分裂の補正に多少問題があること, 今後の作業については一部外注を考えないとパンクするおそれがあることが指摘された。後者については原研グループ, 吉田委員が中心となり可能な努力をすることとした。

遅発中性子については, 中嶋委員の最新推定値が中間ファイルに入っているが, 一応橋委員を中心に内容をチェックすることが求められた。

2. 誤差評価

第 2 版完成 (86 年度末を予定) までに, 誤差評価も完成させる立場から, 比較的容易な評価法の案の説明が田坂委員よりなされた。

誤差評価のベースとなる感度係数の導出法と結果の一部につき, 飯島委員が紹介した。

上記 2 案の主な相違点 (必要な崩壊チェインの長さ, 半減期の扱い, 感

度係数をファイルとして残すか否か)につき議論があった。

3. その他

capture effectの学会欧文誌投稿原稿につき田坂委員より説明があった。

H C L W R の capture effect について、飯島委員より説明があった。

理論スペクトルをより詳細に扱った遅発ガンマスペクトル計算値と秋山データが非常に良く一致することが片倉委員より報告され、なるべく早いうちにpublishして欲しいとの意見が強く出された。

ハイデルベルクのProf. H. V. Klapdor の6月9日東工大での講演と講演終了後、話し合った際の内容が吉田委員より報告された。

8月末か9月上旬に東京で全体会合を開く。主な発表と発表者の予定は、第2版作成状況(井原)、スペクトル(片倉)、遅発中性子(橋)、Capture効果(田坂)。